



第61回日本腹部救急医学会総会

ランチョンセミナー4 (LS04)

緊急開腹手術後の集学的治療 ー最良のアウトカムを求めてー

日時

2025年3月20日(木) 11:50~12:40

会場

第4会場 (ウインクあいち 7F 展示室702-704)

司会

庄古 知久 先生

東京女子医科大学附属足立医療センター 救命救急センター・救急医療科

演者

山元 良 先生

慶應義塾大学医学部救急医学

血液浄化の気になる

論文紹介中!

東レ急性血液浄化ポータルサイト



[https://www.blood-purification.toray/
medical-personnel/](https://www.blood-purification.toray/medical-personnel/)

本セミナーは整理券制です。

整理券はセミナー開始と同時に無効となります。

事前受付: ホームページ上より事前登録にて受け付けいたします。

当日受付: 当日配布分のみ現地にてお配りいたします。

緊急開腹手術後の集学的治療

—最良のアウトカムを求めて—

慶應義塾大学医学部救急医学

山元 良

腹腔内感染症に起因する敗血症性ショック症例や腹腔内大量出血症例に対する緊急開腹手術では、しばしば術後管理に難渋する。特に、術後の集中治療における腸管循環を考慮した全身管理において体系的な指針はなく、緊急開腹手術後の管理を主に任される若手外科医を悩ませることは少なくない。さらに、Open Abdomenという選択肢の登場により手術操作を複数回に分割して行うことが可能となり、集中治療を含めた蘇生戦略と複数回の手術の無数の組み合わせの中から最適解を見出すのは容易ではなくなっている。

また、敗血症に対する治療に関しては良質なエビデンスを組み合わせた複数のガイドラインが存在しているが、開腹手術後の患者特性を踏まえた腸管循環を優先する管理に関しては、テーラーメイド治療の余地が十分にあると考えられる。補助療法を含め、過去の研究において見出されたアウトカムを正確に把握することが、術後患者の管理に関する解決の糸口となる。

ここでは、緊急開腹手術後の管理において現場で良く遭遇する臨床疑問を取り上げながら、種々のガイドライン、基本的な術前・術中戦略、Open Abdomenの最新知見、腸管循環を踏まえた緊急開腹手術後の集中治療における優先順位の決め方について紹介する。